

# たった一発で人生はこわれる。

新型コロナウイルスの正体が次第に明らかになり、抗ウイルス剤やワクチンの開発も進んでいるらしい。ワクチンについては各国で実証実験が展開され、イギリスなど一部の国では接種が開始されたと報道されている。

厚労省のデータでは、緊急事態宣言が解除されたあたりから、陽性者数に占める死亡者数の比率（致命率）は七十歳代、八十歳代などの高齢者層をも含め全世代において減少傾向をたどっている。なぜそうなのか、私には知る由もないが、感染症とはいずれ収束期を迎えるからこそその感染症なのであろう。手ひどく痛めつけられながらもやがて収束していった過去の感染症の先例に沿う動向を、新型コロナウイルスもまた示し始めたということなのであろう。とはいえ、新型コロナウイルスは日本の社会を厄介な状況に追い込み、その傷はなお深い。コロナは一年間にわたり継続的に人々を不安と恐怖におとしました。平時であれば心の多少のざわめき程度で終わっていたような人間関係のストレスが、ウイルスの

渡辺利夫（オイスカ会長）

一九三九年、山梨県生まれ。七〇年、慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。筑波大学・東京工業大学教授、拓殖大学学長、総長、学事顧問などを歴任。二〇一〇年十二月退任。二〇一七年六月より現職。

拡散とともに強化され、家庭内や組織内部の人間関係を過酷なものにしてしまった可能性がある。鉄道事業者共同で作成された暴力行為防止ポスター「たった一発で人生はこわれる。」は、駅や列車内において鉄道係員への暴力や客同士のトラブルがもはや無視できないほどのものになったことを証しているものにちがいない。そのうえ、このウイルスは感染症に近いところで献身する医療従事者やその家族などに對する差別意識を増殖させてしまうという危険性さえ抱えもつ。

ポイントは不安と恐怖である。考えてみれば、私どもは不安や恐怖があるからこそ、この実に厄介な世の中を何とか凌いでこれたのではないか。もともと不完全なる人間が不安や恐怖を排除しようとあがいてみても、そもそもそれは不可能なことである。

新型コロナウイルスとて、やがては過ぎ去っていく感染症の一つだと見据えて日々を送るための豊かな知恵を、信頼できる友よ、誰か提供してくれないのか。